

おたるの元気を取り戻せ！ 市民との意見交換会 「一日教授会」 を開催

市民の方々との意見交換会「一日教授会」が、「街の振興と活性化」をテーマに開催され、小樽の街の活性化に向けて活発な議論が展開されました。

商大では、市民の方々へ一日だけ教授会のメンバーになっていただき、大学に対するご意見・ご要望を聴く機会を設け、商大と地域の絆を深めることを目的として、毎年テーマを設定して「一日教授会」を開催しています。

第4回目となる今回は、「街の振興と活性化」をテーマに、10月20日小樽グランドホテルで開催しました。丸井今井の閉店に象徴されるように、小樽の街の活気が失われつつ

ある中で、商大が何をすべきか、何が出来るか、何を期待するかを市民の方々との膝を交えて意見交換をし、商大が果たすべき役割について話し合われました。

会場には市民の方々をはじめ、教職員、学生を含み、170人も参加者があり、街の活性化に対する関心の高さや、商大に対する期待の大きさを感じさせる内容となりました。

1部では、山田小樽市長、森川小樽商工会議所副会長、作家の蜂谷涼氏からゲストスピーチとして、それぞれ行政、産業界、文化人としての立場から商大に期待することをお話いただきました。

引き続き行われた2部では、市民の方々から様々な意見や質問が寄せられ、最後に秋山学長から、来年も同じテーマで開催し、言い放し、聞き放しではなく、この一日教授会から具体的な成果を生み出したいとの挨拶で会議を締めくくりました。

市民の方々の質問・要望（Q）と商大の回答（A）の紹介（代表例）

Q . 卒業後、小樽・北海道を離れる学生が多いので、小樽に就職して地元の発展に貢献してほしい。

A . 全国各地から学生が集まり、商大で勉強してほしいと願っています。学生の出身地域が多様になれば、各地の文化や習慣に触れる機会も増え、視野や人脈も広がっていくことでしょう。

そのような環境で育った卒業生には、日本全国、世界各地で活躍してもらい、商大の社会的な評価を高めてほしいものです。もちろん、地元の発展に貢献する人材も必要ですが、多くの商大生が地元に残るのではなく、バランスよく各地に分散されることが理想だと考えています。

Q . 小樽にサテライトは設置できないか。

A . 小樽にサテライトを設置することについては、過去の一日教授会においても必ず意見が出されており、非常に良いアイデアであると受け止めております。

しかしながら、サテライトを設置する方向で検討する場合、商大としても、限られた予算のなかで実現することになりますから、費用対効果の観点から、学内外に説明できるものでなければなりません。

商大単独のサテライトではなく、小樽の市民、行政、産業界、教育界が交流できる場所を確保する方向で、それぞれ相互に連携しながら検討することが実現への近道かもしれません。商大としても、腰を据えて検討したいと思いますので、利用形態に関する具体的なアイデアをお寄せいただくようお願いします。

Q . 観光学科を新設できないか。

A . 観光学科を設置することができれば、ある程度の志願者を確保することも見込まれ、大変魅力的な提案ではありますが、現実的には、極めて困難であると言わざるを得ません。

観光学科を新設しなければ何もできないというわけではありません。商大の得意なマーケティング等の専門分野を活用して、少なからず観光産業に貢献できることがあります。また、観光をテーマとした公開講座の開催や、「小樽学」の講義内容を観光分野にも広げることによって、新たな観光資源発掘の手がかりを探ったり、観光産業の担い手を育成する

ことも可能ではないかと考えています。

Q . 少子高齢化時代を迎え、小樽の街づくりについて、小樽市とともに考えていたらどうか。

A . 都市計画の研究に取り組んでいる教員もおりますが、小樽の街づくりについて体系的な研究はされていないのが現状です。また、これまでどおり、商大が市政に協力を惜しまないことは、言うまでもありません。

ここに掲載したものの他、たくさんのご意見、ご質問が寄せられました。すべてを本学ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu/1/ichinichi/dai-4.htm>

